

自主と主権、社会発展

アジア・チュチェ思想研究所理事長
ハリシュ・グプタ

尊敬する本セミナーの議長、マッテオ・カルボネリ先生

尊敬するラモン・ヒメネス・ロペス先生

尊敬する尾上健一先生

尊敬する朝鮮社会科学者協会副委員長先生

はじめに、わたしは、朝鮮民主主義人民共和国創建 75 周年という喜ばしい日に、チュチェ思想国際研究所が、イタリアのローマにおいて国際セミナーを開催するにいたったことを、高く称賛いたします。

本日この機会に、わたしが、「自主と主権、社会発展」というテーマで、スピーチをおこなう前に、わたしは、自分自身の気持ちとして、また、アジア・チュチェ思想研究所を代表して、チュチェ思想を創始し、日本帝国主義の過酷な植民地統治から朝鮮を解放するための長期にわたる厳しいたたかいをおこなった偉大な指導者であり永遠の国家主席、金日成主席に深い敬意を表します。

わたしたちはまた、この機会に金正日総書記にわたしたちの心からの敬意を表します。金正日総書記は、チュチェ思想を深化発展させ、国の自主独立を擁護するために、先軍政治の意義を強調しました。

わたしたち、アジアのチュチェ思想研究者は、金日成・金正日主義を指導思想としてかけ、朝鮮を自力更生の精神で発展するチュチェの社会主義強国として建設したことを、誇りに思います。

事実、金日成・金正日主義は、もっとも影響力があり実践的な、現時代の指導思想です。なぜなら、金日成・金正日主義は、自主・独立を志向する世界のすべての国と民族の自主・独立を擁護しているからです。

さて、セミナーのテーマについて言及いたしますが、チュチェ思想が自主性を提唱していることは周知のとおりです。

金日成主席は、「自由に生きようと欲するのは人間の属性です」と言いました。実際、自主性は人間の生命であるように、自主性はまた、国や民族の生命です。

金正日総書記は、「他者による国と民族の支配と従属や、国家間の不平等に反対して

世界的な自主性を実現することは、自主性をかかげるチュチェ思想の重要な要求である」と述べました。

「世界の自主化」概念は、チュチェ思想によって明らかにされています。人間は自己の運命の主人であり、自己の運命をきりひらく力を有するということを根本原理とするチュチェ思想は、国と民族の自主性を擁護することを根本的な要求とみなしています。

人間や国の自主性は、自力更生に裏付けられています。言い換えれば、自主性とはすなわち自力更生です。そして、自主性はチュチェ哲学の基本内容の核心部分をなします。

金日成主席は、つぎのように述べています。

「チュチェを確立するということは、自国の革命の主人になるということの意味します。これは自主的な立場を堅持し、他者への依存を排し、自分の頭脳を働かせ、自分の力を信じ、自力更生の革命精神を発揮し、いかなる状況のもとでも、自己の責任で自身の問題を解決することを意味します」

金日成主席は、たゆまぬ努力と高邁な徳性によって、朝鮮人民に新しい生命を吹き込み、自力更生がもたらす教訓を教え、日本の植民地政策の束縛から朝鮮を解放しました。金日成主席は、その全生涯を通じて、自分自身の力に徹底してとづくことや自力更生、自主の概念を教えました。

金正日総書記も、著作『チュチェ思想について』の中で、政治における自主、経済における自立、国防における自衛を確立することによって、自主的な国家を実現することができる」と明確に述べています。

今日、朝鮮は、核抑止力を有し、強力な軍事力をもつ、世界有数の国家となりました。それゆえ、いかなる国も朝鮮の自主と主権をあえて踏みにじることはできません。朝鮮がこのような地位を得ることができたのは、金正日総書記の先軍思想のおかげです。朝鮮は、公然とかつ正当に、自国を防衛するために、全面的な軍事的準備と国防における自衛を呼びかけています。

金正日総書記は、朝鮮の軍備は、帝国主義者の常軌を逸した無謀な侵略に対する自衛のための防波堤であると述べました。それゆえ、金正日総書記は、自力更生の原則にしっかりとふまえながら、朝鮮人民が目標とするのは、軍事優先であるということ、いいかえればそれは、軍事的準備における自力更生だとし、先軍思想を強くうちだしました。金正日総書記はさらに、たとえ話をまじえて、「われわれが軍事を重視し、人民軍を誠実に支援し、全人民を武装させ、全土を要塞化するなら、自国をいかなる敵もあえて攻撃することのできない、(自分のとげで武装した)ヤマアラシのような国にすることができます」と述べました。

今日、朝鮮が強固で自力更生した、自主独立国家であるのは、チュチェ思想が、建国以来の革命と建設における朝鮮の指導思想となっているからです。先軍政治は、チュチェ思想に根ざしています。

不当で道義に反する国連の対朝鮮経済制裁と帝国主義者によるたえまない軍事的威嚇にもかかわらず、朝鮮は建国以来 75 年間、さまざまな発展分野を含む経済の各分野でめざましい発展を遂げてきました。

社会発展とは、わたしたちがみな理解しているように、社会の各成員が、自己の潜在的能力を可能なかぎり発揮できるように、各自の生活水準を向上させることを意味します。社会総体の発展は、社会の各成員の生活水準の向上と結びついています。

チュチェ思想は、人間中心の思想です。社会のあらゆる活動が、人間によっておこなわれています。それゆえ、政府の政策のすべてが、民衆の福利厚生を念頭においています。社会発展の指標として、朝鮮では、民衆の福利厚生が重視されています。

どのような社会においても、社会発展の指標がいくつかあります。社会発展の指標を示すものとして、教育、保健、平均寿命、乳幼児の死亡率、所得分配、食糧入手の可能性、基本的な住宅設備、雇用、犯罪と安全などがあります。

朝鮮では、教育は社会的な課題とみなされています。政府は、すべての人が質の高い教育を受けられるようにし、生産活動において高い能力が発揮できるように努めています。教育はあらゆる社会の屋台骨です。教育は、一人ひとりや共同社会が自己の未来をきずき、人々が公正で価値ある生を営むことのできる機会を与える基盤です。教育なくして、いかなる国や民族も社会発展を実現することはできません。

インドの著名な識見者であるスワミ・ヴィヴェーカーナンダの言葉にすぎのようなものがあります。

「人々が自助努力について教えられていなければ、世界のあらゆる富をもってしても、小さな村さえ正常に機能させることはできません。わたしたちの仕事は、道徳と知性の面において、あくまでも教育的なものでなければなりません。つまり、教育の重要性はいくら強調してもしすぎることはないということです」

日本帝国主義者による過酷な植民地支配のあいだ、朝鮮における民族教育の発展は極めて制限されていました。そして、日本帝国主義者は、民族教育を抹殺することによって、朝鮮は教育の不毛の地と化しました。彼らは朝鮮人が無知蒙昧でありつづけることを望みました。

1945 年 8 月 15 日に朝鮮が解放された当時、成人の 80%を占める約 230 万人が非識字者でした。法外な学費のために、富裕層の子弟だけが通える中学校がごくわずかにあ

りました。その他の子どもたちのほとんどは、学校教育を受けることができませんでした。解放後、朝鮮においてしっかりした教育制度を樹立することは、至難の業でした。

解放から 75 年以上の歳月を経て現在に至るまで、朝鮮では、無料 12 年制一般的義務教育が導入され、若い世代の誰もが国家の支出で自分の能力を最大限に発揮できるよう、学んでいます。

高等教育の分野では、1946 年 9 月 15 日に、朝鮮における最初の大学、金日成総合大学が設立されました。1949 年には 15 の高等教育機関と 55 の技術学校が設立されました。年を追うごとに、より多くの高等教育機関や大学、専門高等教育機関が設立されるようになりました。各道には、技術、軽工業、農業、医学、科学技術の高等教育機関や教員養成所があります。

金正恩総書記のすぐれたダイナミックな指導のもと、そして朝鮮労働党の決意により、朝鮮では、非常にりっぱで現代的な教育制度が樹立されたことは、心強いことです。

さらに、朝鮮では人民の健康が最優先されています。保健医療に対する党の決意は、憲法で明記された無料の保健施設と、訓練を受けた人材の安定的な確保に裏打ちされた強固な保健人材力、および保健への持続的な投資によって証明されています。

朝鮮民主主義人民共和国憲法第 15 条は、「国は、都市と農村、工場、漁村、山村のいたる所に病院と診療所を合理的に配置し、最新の方法で管理し、あらゆる場所に中風病院、小児病院を含む専門病院と療養所を設置し、人民がいつでもどこでも不便なく治療を受けられるように、専門医療のレベルを不断に向上させなければならない」と規定しています。

朝鮮には、総合病院、専門病院、診療所など、中央クラスから里や洞のような行政単位に至るまで、巨大な医療施設のネットワークがあります。

朝鮮には、平壤総合病院、平壤産院、玉流児童病院などのほかに、133 の道レベルの病院、1608 の郡レベルの病院、6263 の村レベルの診療所があります。

多くの経済的難題をかかえているにもかかわらず、金正恩総書記の指導のもと、朝鮮政府は多額の資金を保健医療に割り当ててきました。2016 年には、朝鮮は GDP の約 6.1 パーセントを保健医療に費やしました。

朝鮮の人々が健康を享受しているのは、国の優れた自立的な医療制度のおかげです。

次に、朝鮮の平均寿命を見てみましょう。一般的に、ある国の寿命は、環境、生活水準、より効果的な保健制度の導入や、公衆衛生、住宅、教育水準などの健康を規定する要因にどれだけ資金が投与されるかにかかっています。

2022 年の世界平均寿命は、男性が 70 歳、女性が 75 歳でした。これに対し、朝鮮の

2019年の平均寿命は72.3歳と推定されます。性別では、女性が72.8歳、男性が64.9歳でした。

朝鮮では、2019年の5歳未満児の死亡率は1000人当たり17.3人であり、非常に低いものでした。これと比較すると、2015年の発展途上国の5歳未満児死亡率は1000人当たり54人であり、低開発国または後開発途上国では1000人当たり86人でした。

国の社会発展の程度は、その国のすべての人々が住宅施設を利用でき、食料が十分に供給されているかどうかによっても示されます。朝鮮では、すべての家族に無料で住む家が提供され、すべての人民に食料が支給されています。それゆえ、朝鮮には、路上で眠ったり、空きっ腹をかかえて眠る人は一人もいません。

失業率もまた、その国の社会発展の指標です。朝鮮では、政府が心身ともに健康なすべての成人に雇用を提供しているため、失業者がいないのです。

スピーチを終えるにあたり、わたしは、朝鮮では解放後からこんにちにいたるまで、社会発展の指標である、経済のあらゆる分野で大きな成果を上げてきたと申し上げたいと思います。

最後に、チュチェの社会主義自主独立国家、朝鮮民主主義人民共和国創建75周年という大変意義深く、喜ばしい機会に、わたしは、金正恩閣下に心からのごあいさつ申し上げるとともに、閣下とすべての朝鮮の同志に、さらに明るい未来がきずかれますよう、祈念いたします。わたしはまた、全朝鮮人民の宿願である、朝鮮半島に恒久的な平和を取り戻すため、朝鮮の早期統一を祈念いたします。